

◆住まいづくりの無料相談会◆再開のお知らせ！

毎月第4土曜日の13時から16時、鶴屋デパート本館5階インテリアカウンターにて無料相談会を開催しております。コロナ感染拡大防止の観点から中断をしておりましたがこの度、10月より再開する運びとなりました。



- 10月23日(土)13～16時 鶴屋本館5階 インテリアカウンター
- 11月27日(土)13～16時 鶴屋本館5階 インテリアカウンター
- 12月25日(土)13～16時 鶴屋本館5階 インテリアカウンター

お買い物がてらお寄りになりませんか？相談員も募集しております。

【活動報告】

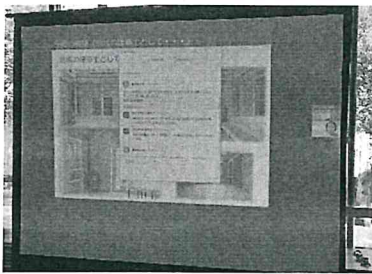
●第30回 全国女性建築士連絡協議会に参加しました



九州各県から届いたお菓子たち



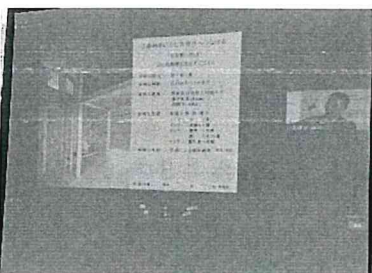
発表する松野さん



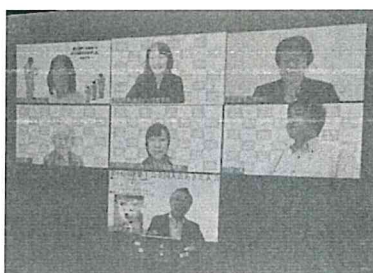
チャットでの質問にリアルタイムで答える持田さん



実行委員会の方々



基調講演



9月25日(土)通称「全建女福岡大会」が開催されました。

本来、昨年実施予定でしたがコロナ禍により今年にずれ、開催地福岡県以外ではオンライン参加による開催となりました。

自宅での視聴も可能のため過去最高の参加者数だったことは喜ばしいことです。

熊本県からは、松野陽子氏が「熊本地震で被災した民家を活かしたまちづくり」持田美沙子氏が「森林で自立する村づくりと熊本復興支援」と題して、分科会発表を行いました。

また、盛高麻衣子氏による「令和2年7月豪雨支援活動報告」もありました。

基調講演では現代の木挽棟梁・杉岡世邦氏による「建築空間を支える木の文化～木挽棟梁のモノサシ～」興味深いお話でした。

今回の様子は動画配信される予定です。

準備をしてこられた皆様のご苦労は計り知れませんが、withコロナの可能性を感じた素晴らしい大会でした。



災害流木を利用したしおりー

わたしたちは「いつでも、誰でも、気軽に」をモットーに全員が参加できる部会活動を目指しています。女性部会の最新情報はFacebookで随時更新中！

「熊本県建築士会女性部会」で検索 ♪👍👍👍



2016年4月の熊本地震、6月の豪雨災害。その時阿蘇では何が起きていたのか。
どのように感じ行動したのか。複数回掲載予定です。



阿蘇支部事務局
采建築設計室
代表 光原摂子

①

2016年4月14日夜

就寝前の片づけで台所に行く私を娘（当時：6歳）と息子（当時：1歳）が追いかけてきた。そんな時に大きな揺れを感じたのだ。倒れそうな冷蔵庫を片手で押さえつつ、もう片手で二人を抱きしめて長い揺れが収まるのを待った。火山性地震の多い阿蘇で生まれ育ったせいか地震に鈍感で、揺れが収まり、他の部屋をチェックして、夫ともう二人の息子（当時：11歳と9歳）の無事を確かめると、就寝した。

翌朝、益城町に地震で大きな被害があったことを聞き、知人を案じたが、しばらくたって、必要なものを届けようなどと思い、通常の生活を送ってしまった。後で、15日に食品や水を買っておけば・・・と後悔することとなる。

2016年1月

阿蘇支部の恒例行事となっている講習会と新年会が開催された。講習会には毎年建築に関わるが少し違った分野の先生に講演いただいている。その年の講師は“熊本大学大学院 自然科学研究科 減災型社会システム実践教育研究センター センター長 松田教授”で演題が“地震被害とその対策について”であった。奇しくも熊本地震の3か月前に地震の講習を受けていたのだ。その時に先生が、「いつ何が起こってもいいように、枕元に靴を置いておくように」と話され

たことを記憶していて、14日の地震から、靴を枕元に置いて寝た。

2016年4月16日夜

激しい揺れで目が覚めると、何が起こったか理解できなかった。我が家はひと部屋に家族全員で寝ていたので、まず、子供たちを手探りで探した。まだ、目覚めない我が子を起こし、靴を履かせて、建物の外に出た。築90年の建物には、結局被害はなかったのだが、それから3日間は車中で寝ることにした。1歳の3男はチャイルドシートで、長男・次男はキャンプ気分で、長女は私に抱きついて、あっという間に熟睡してしまっていたが、私は目が冴えてしまった。明るくなって状況を把握したかった。日の出を待つ時間の長いこと。揺れの度に車を停めている周辺を確認して、夜が明けたら何をするか頭を整理して過ごした。

4月16日朝

日の出をあんなに感動して迎えたことは初めてだった。その朝に庭の赤い牡丹が開いた。大地震が起きた朝に開く花を見て、私も自然の一部でしかない無力さを実感した。電気・水道・固定電話・携帯電話は一切使えない。都市部ではLINEなどが使えたそうだが、阿蘇においては数日後、各携帯メーカーのアンテナを積んだ車が到着するまで使えなかった。朝食に家にあった饅頭を食べ、トイレの使用を1カ所に限定し、お風呂の貯め水で流すことにした。私の住んでいる地域では建物の被害はそれほどなかったが、道路・橋の被害が大きく、情報収集は徒歩か自転車で行ける範囲であった。とりあえずの食糧はなんとかかなりそうだったが、3男の紙おむつをどうするか？が一番の問題となった。（つづく）